

令和7年度 保健師職能委員会 活動報告

■委員名

委員長：吉村信恵

副委員長：堀尾千恵

委員：押場美穂 菅 澄子 橋野富久子 御宿恵美 八幡眞美 竹内万梨
 石井久仁子 坪井裕子 山際陽子 田中由香

■活動目標

1. 保健師の資質の向上を図るとともに保健師の専門性を追求する。
2. 行政・職域・医療・福祉等様々な分野で働く保健師の現状から課題の集約に努めるとともに、保健師間および看護職間のネットワーク化を図る。

■委員会開催状況と検討内容

回	開催日	出席者	内容
1	令和7年4月19日	10名	・令和7年度全国保健師長会講演会視聴と意見交換
2	令和7年7月5日	9名	・令和7年度保健師職能委員会開催予定日・役割分担について ・保健師交流研修会準備
3	令和7年7月26日	9名	・県・政令市・中核市・市町・産業・大学の保健師活動の情報共有 ・保健師交流研修会準備
4	令和7年8月30日	9名	・全国保健師職能委員長会報告 ・母子保健の現状と課題について意見交換
5	令和7年9月13日	9名	・保健師助産師交流会準備 ・保健師交流研修会準備
6	令和7年10月4日	10名	・保健師交流研修会準備
7	令和7年11月1日	6名	・保健師交流研修会評価 ・難病医療ネットワーク支援協議会神経難病部会研修会（聴講）
8	令和7年12月20日	12名	・近畿ブロック職能委員長会報告 ・各所属等での保健師活動現状・課題・解決策について
9	令和8年1月31日	9名	・保健師助産師交流会準備 ・令和8年度委員会活動計画 ・三職能合同集会のテーマの検討
10	令和8年3月14日	11名	・令和7年度委員会活動評価 ・令和8年度委員会活動計画

■活動内容	1. 保健師助産師看護師職能集会 日 時：令和7年6月19日 9：30～12：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：令和6年度保健師職能委員会活動報告 令和7年度保健師職能委員会活動計画 特別講演 テーマ：「ネガティブ・ケイパビリティを身につけて、不確実な時代を生き抜こう！」 ～モヤモヤを宝に変えて自分を大切に働こう～ 講 師：コミュニケーションサロン 勇気のしずく 代表 長谷静香 氏 参加者：129名（会場82名 オンライン47名） 2. 保健師助産師看護師職能合同交流会 日 時：令和7年8月30日 13：30～16：00 場 所：兵庫県看護協会会館（オンライン併用） 内 容：「地域を結ぶ看護職の力」 ～災害時における人工呼吸器装着児（者）への支援～ 講 師：あかし保健所 健康推進課 草野一恵 氏 参加者：129名（会場66名 オンライン63名） 3. 保健師交流研修会 日 時：令和7年10月4日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：プラチナ保健師に聞くわたしの原動力 ～困難の乗り越え方～ 内 容：講演及び交流会 講 師：清水美代子 氏（元兵庫県保健師） 田中由紀子 氏（元神戸市保健師） 参加者：46名 4. 保健師助産師交流会 日 時：令和8年1月31日 13：30～16：30 場 所：兵庫県看護協会会館 テーマ：「保健師と助産師の協働による子育て支援」 ～妊娠期から乳幼児期までの虐待予防を考える～ 内 容：講演と地区別交流会 講 師：明石こどもセンター 嘱託医 甲南女子大学名誉教授 稲垣由子 氏（小児科医） 所 長 秋末珠美 氏（保健師） 参加者：63名
■活動の評価	1. 保健師の資質の向上を図るとともに、保健師の専門性を追求する。 2. 行政・職域・医療・介護・福祉等様々な分野で働く保健師の現状から課題の集約に努め、保健師・看護職間のネットワーク化を図る。 合同職能集会では、ネガティブ・ケイパビリティについての講演を聞いた。保健師として、地域をフィールドにし、アルコール依存症、パーソナリティ障害、DV、虐待関連等様々なケースを支援しているが、皆複雑で多問題を抱えており、簡単に問題は解決しない。状況が変わる時を辛抱強く待ち、チャンスが来たらタイムリーに介入する。それまでじっと耐えて、関係を保ちながら寄り添い関わり続けるという力が必要

	とされている。若手が燃え尽きないように伴走していきたいと思える研修だった。 三職能合同交流会は、明石市保健師による医療的ケア児の災害時の支援について講演後、地区別交流会を実施した。講師から災害訓練の内容について丁寧に説明があり、行政保健師は、担当している医療的ケア児と比較して考える機会となった。また、講演が契機となり、病院から電源確保のための場所提供の申し出につながる地域があった。地区別交流会においても、病院看護師と地域の保健師が顔を合わせる機会となり、行政の実施する連絡会に参加することにつながった地域もあった。 保健師交流研修会は、兵庫県・神戸市のOG保健師の講演の後、世代別の交流会を実施した。参加者は、入職1年目から60歳代まで幅広い年代で、新任期、中堅期、リーダー期で年代ごとに交流を実施した。参加者からは、退職後も保健師マインドや地域、人をつなぐ技術をもって地域活動していることに感動し、必要な資源を自ら作り出す話を聞き、改めて大事なことを確認できた。自身のこれからの生き方や働き方を前向きに考えたいと感ずることができた。若い年代からは、保健師業務の歴史を知り、今の業務との違いに驚いた、話の中でケースに深く向き合うところや相手の思いに寄り添っていく姿勢を忘れずにいたいという声もあった。交流会では、先輩から、小さな不安を共有してもらいアドバイスがもらえてよかった。同年代と日々の仕事での困りごとを話せてよかった。様々な所属の保健師と話せて、連携が必要と感じた。講師が「足りない技術は外で磨け」と言われていたように職場の外で話できたからこそ、仕事のことだけでなく、保健師としての思いを共有できたという感想があった。この会の後に、講師のOG保健師は、自治体の研修会の講師を務めるなど、次の活動につながり成果を上げることができた。 保健師助産師交流会は、明石子どもセンターの嘱託医と所長（保健師）による虐待予防を中心にした講演と地区別交流会を実施した。講演は、理論的で分かりやすく、事例を交えての説明があったことで、よりイメージしやすかったという感想があった。交流会では、助産師より病院の状況や保健師に対する思いが聞けて良かった、直接顔を見て情報交換できてよかったという声が多く上がった。 〔課題〕 行政保健師：若手の人材育成について、家庭訪問など先輩と同行する機会が多く、独り立ちさせるのが難しい。困難事例の対応が多く、地域とつながりをつくる活動にまで手が回らない状況等 産業保健師：行政保健師とは本人を介さないと連携が取れない。行政が提供しているサービスが分からない。一人職場が多く、職位が安定しない。
■今後の課題	・保健師活動指針改正に伴う保健師の専門性を追求する。 ・様々な分野で働く保健師間の交流を実施し、課題を集約していく。 ・助産師職能と連携した母子のための安全・安心な地域包括ケアシステムを推進する。 ・三職能合同で実施する集会や交流会を通して、看護職間の連携を深める。